

建造物の調査と研究

古代建築の調査研究 従来から継続している本研究では、昨年度から所内の共同研究として、これまでに蓄積された調査研究、発掘された建築部材、保存修理工事で得たデータ、現存古代建築の観察などをもとに、細部にわたる古代建築の技法の総合的な研究を行っている。当年度は基壇の外装、屋根葺き仕様、彩色などについて調査した(57頁参照)。

基壇については、形態、石材の大きさや組み方、床の敷き方などの詳細を、事例や遺構によって検討するとともに、石材産地の現地調査を行った。瓦葺きは、実大模型を使って試し葺きを行い、軒隅・大棟・鴟尾・けらば・降棟・隅棟など各部の屋根葺き仕様と納まりを考察した。彩色は、事例を調査するとともに、とくに大極殿について、彩色の有無、程度、デザインなどの検討を始めた。今後さらに飾り金具の素材・加工・仕上げ・意匠、

土壁の構造・材料構成・仕様などについても、研究をすすめる予定である。

平城宮建物復原実施にともなう調査研究 大極殿関係では、復原実施設計図書作成、並びに5分の1構造模型と屋根葺き実験用の原寸瓦葺き模型の製作(61頁参照)について、また宮内省では築地の復原など、設計に関する監修を行った。東院庭園隅楼の施工にあたっては、原寸図における検討や用材の確認を行った。

木造建造物の保存修復のための調査研究 昨年度から7年計画で発足した4部会からなるプロジェクトで、文化庁の協力による関係機関や大学との共同研究として行っている。部会1は保存修復の体制確立のための研究とし、多様化する文化財建造物に対処する新たな体制と組織の研究。部会2は保存修復に関する考え方と手法の研究として、過去の修復を評価するとともに、文化財保存修復の今後のあるべき考え方、方法をさぐる。部会3は参考となる海外の事例を調査研究する。部会4は保存事業にともない蓄積された学術資料の整理と保存活用方法の研究で、文化庁ほかに収蔵された保存修復時の資料を再評価し、今後の活用方法を研究するものである。

各地の史跡の整備事業への助言・指導 柳之御所(岩手県)、下野国分寺(国分寺町)、新居関(新居町)、崇廣堂(上野市)、近江国庁(滋賀県)、春日大社、津山城(津山市)、上淀庵寺等(淀江町)などの、遺跡整備における建物復原に関する助言・指導を行った。

各地の文化財建造物の修復事業への助言・指導 新宿御苑(環境庁)、中央公会堂(大阪市)、布引ダム(神戸市)、今井町(橿原市)、周防国分寺金堂(国分寺)、旧県会議事堂(山口県)、脇町南町(脇町)、西田橋(鹿児島県)などの保存修復にあたり、助言・指導を行った。

(木村 勉/建造物研究室)